

日本気象学会2016年度春季大会 出展・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご出展・ご協賛・ご協力を頂きました（2016年3月25日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。

< 出展・協賛・協力 >

株式会社アイ・アール・システム*
株式会社朝倉書店
有限会社イーオーアール*
英弘精機株式会社*
Exelis VIS 株式会社*
学術図書出版 大空社
オフィス気象キャスター株式会社
サイバネットシステム株式会社*
全日本空輸株式会社
ダイヤモンドエアサービス株式会社
日本気象株式会社*
一般財団法人日本気象協会*
日本無線株式会社*
株式会社ニューテック*
株式会社日立パワーソリューションズ*
株式会社フィールドジョイ*
株式会社フィールドプロ*
株式会社ブリード*
三菱電機株式会社*
(五十音順)

*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。

日本気象学会 2016年度春季大会

会期：2016年5月18日（水）～21日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）
（<http://nyc.niye.go.jp/>）

大会実行委員会担当機関：気象庁

大会委員長：隈 健一（気象庁観測部）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局
（国立オリンピック記念青少年総合センター415会議室（センター棟 4F））
TEL 080-3589-9716（大会期間中のみ有効）
※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板に掲載します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知をお願いします。

会場案内図

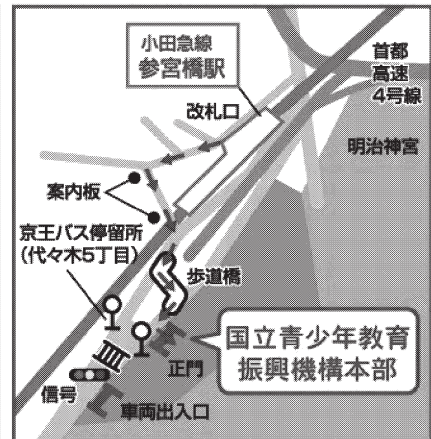


国立オリンピック記念青少年総合センターホームページより

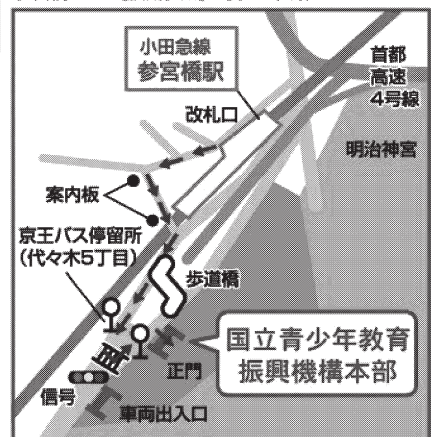
交通の案内

- 小田急線：
新宿駅から各駅停車 約3分
「参宮橋」駅下車 徒歩 約7分
- 地下鉄千代田線：
「代々木公園」駅下車 徒歩 約10分
- 京王バス：
新宿駅西口16番より 「代々木5丁目」下車
渋谷駅西口14番より 「代々木5丁目」下車

参宮橋からの[歩道橋]を使った経路



参宮橋からの[横断歩道]を使った経路



大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F) 総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (カルチャー棟)
 B会場 : 309会議室 (センター棟 3F) 受付 : 416会議室 (センター棟 4F)
 C会場 : 310会議室 (センター棟 3F) 大会事務局 : 415会議室 (センター棟 4F)
 D会場 : 311会議室 (センター棟 3F) 懇親会 : レセプションホール (国際交流棟)
 ポスター会場 : 401・402・403・405会議室 (センター棟 4F)
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 18日 (水)	10:00～ 11:30	気候システムⅠ (6, A101～A106)	降水システムⅠ (6, B101～B106)	相互作用 (5, C101～C105)	環境気象・気象教育 (6, D101～D106)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (36, P101～P136)			
	13:30～ 17:00	気候システムⅡ (14, A151～A164)	降水システムⅡ (15, B151～B165)	気象予報・データ同化 (13, C151～C163)	大気力学 (13, D151～D163)
5月 19日 (木)	09:30～ 11:30	気候システムⅢ (8, A201～A208)	降水システムⅢ (8, B201～B208)	熱帯・台風Ⅰ (8, C201～C208)	観測手法Ⅰ (7, D201～D207)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P201～P234)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞・岸保賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 20日 (金)	09:30～ 11:30	気候システムⅣ (9, A301～A309)	降水システムⅣ (8, B301～B308)	熱帯・台風Ⅱ (8, C301～C308)	観測手法Ⅱ (7, D301～D307)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (35, P301～P335)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「竜巻の観測・予測の現状と将来」			
5月 21日 (土)	09:30～ 11:30	中高緯度大気 (6, A401～A406)	放射 (8, B401～B408)	熱帯・台風Ⅲ (8, C401～C408)	観測手法Ⅲ (6, D401～D406)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (6, P401～P406) ジュニアセッション (10:30～12:30)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「台風災害 ～台風列 島でどう生き延びるの か?～」	専門分科会 (13, B451～B463) 「雷放電の理解とその 応用」	物質循環 (13, C451～C463)	大気境界層 (10, D451～D460)

発表件数 : 316件 (専門分科会13, 口頭発表192, ポスター111)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について (http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2016s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は13分（講演10分・質疑3分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンピーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行

って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150cm×横180cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画紙をお使い下さい。画紙は各自でご用意下さい。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は09:00～17:30、大会第4日目は09:00～14:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「竜巻の観測・予測の現状と将来」

日時：大会第3日（5月20日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：鈴木 修（気象庁気象研究所）

趣旨：

2006年は、北海道佐呂間町と宮崎県延岡市において2つの顕著な竜巻被害が発生し、竜巻を含む突風に対する気象庁の対応や多くの竜巻関連研究のきっかけとなった年である。この10年間で、わが国おける竜巻の観測・予測は大きな進歩を遂げた。

気象庁では、ドップラーレーダーの全国展開、竜巻発生後の機動調査班による現地調査など観測・調査体制を強化するとともに、竜巻注意情報、竜巻発生確度ナウキャストなど情報の提供も開始された。また、従来の藤田スケールに代わる新たなスケールの開発、高解像度な数値予報モデルにより再現されたスーパーセルや竜巻状渦の研究、地球温暖化に伴う発生頻度が高まる可能性を指摘する研究なども進んでいる。

しかし、竜巻に対する予測精度や実態解明の現状は、社会の期待に答えるためには、まだ大きな課題がある段階であるのが実状である。本シンポジウムでは、10年の節目を迎え、竜巻の観測・調査や予測・情報提供の現状と研究の最前線の取り組みを概観し、将来を展望する。

プログラム：

- 1) 「気象庁における竜巻等突風に関わる業務の概要」
中里 真久（気象庁予報部予報課）
- 2) 「日本版改良藤田スケール（JEFスケール）の策定」
田村 幸雄（東京工芸大学）
- 3) 「竜巻観測の現状と課題」
小林 文明（防衛大学校）
- 4) 「数値シミュレーションを用いた竜巻の発生機構に関する研究」
益子 渉（気象庁気象研究所）
- 5) 「竜巻—その環境場の理解と予測可能性にむけて—」
新野 宏（東京大学大気海洋研究所）
- 6) 「総合討論」
司会：新野 宏（東京大学大気海洋研究所）

※各講演時間は質疑応答で30分です。

問い合わせ先：安部俊司（気象庁観測部計画課情報管理室）

TEL: 03-3212-8341（内線4154）

E-mail: sambe@met.kishou.go.jp

総 会

日時：大会第2日（5月19日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

議事次第

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 開会 | (3) 2015年度監査報告 |
| 2. 議長選出 | (4) 第39期役員を選任について |
| 3. 理事長挨拶 | 9. 報告 |
| 4. 2016年度日本気象学会賞授与 | (1) 2016年度事業計画 |
| 5. 2016年度藤原賞授与 | (2) 2016年度収支予算 |
| 6. 2016年度岸保賞授与 | (3) その他 |
| 7. 2015年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告 | 10. 議事録署名人の指名 |
| 8. 議事 | 11. 議長解任 |
| (1) 2015年度事業報告 | 12. 閉会 |
| (2) 2015年度収支決算報告 | |

専門分科会の概要紹介

2016年度春季大会では下記の通り、1件の専門分科会が開かれます。

雷放電の理解とその応用

日時：大会第4日（5月21日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：雷放電の理解を目的として積乱雲内の電荷分離機構や雷放電過程などに着目した最新の研究の集約を行う。さらに応用分野として雷放電データの利活用など幅広く雷放電・雷活動も取り上げ、議論を行う。具体的には以下のテーマを主に取り上げる。

- (1) 積乱雲内の電荷分離機構に関する研究：気象レーダーと雷観測データを用いた事例解析、積乱雲シミュ

レーションを用いた雷放電の研究。

- (2) 雷放電の進展過程に関する研究：ステップトリーダ、リターンストロークなど雷放電諸過程に関する研究。
- (3) 雷放電データの利活用：雷放電データの航空分野への応用、雷活動の予測手法など。

コッピナー：吉田智（気象研究所）、林修吾（気象研究所）、角村悟（気象研究所）、森本健志（近畿大学）、牛尾知雄（大阪大学）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは公開気象講演会参加登録のページ (<http://www.metsoc.jp/?p=5906>) をご覧下さい。参加は無料です。

日時：2016年5月21日(土)（大会第4日）13:30～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター セミナーホール417（大会A会場）

テーマ：「台風災害 ～台風列島でどう生き延びるのか？～」

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会2016年度春季大会の開催に併せて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。今回は、「台風災害」を取り上げます。我が国では、1959年の伊勢湾台風以降、台風観測網や防災整備そして予報技術の開発を国家政策とし

て推し進めてきました。その結果、台風による災害は半世紀前と比べて大幅に減少しています。しかし、平成23年台風第12号により死者・行方不明者90名以上、昨年の台風第17号と第18号接近時では記録的な大雨により鬼怒川堤防は決壊と、今もお甚大な被害は起きています。科学技術がこれだけ進展した現在においても、台風の脅威からのがれることはできないのでしょうか？そこで今回の講演会では、これまでの台風被害や現在の台風観測・予報をふりかえり、未来の台風予報や社会に伝える災害リスク情報、これからの報道や気象キャスターの使命について、一般の方々にも分かりやすくご紹介いたします。ふるってご参加下さるようお願いいたします。この台風列島で、君は生き延びることができるか？

テーマおよび講演者：

1. 「歴史に残る台風と防災力の向上」
大西晴夫（日本気象予報士会）
2. 「鬼怒川決壊をもたらした豪雨のしくみ」
津口裕茂（気象研究所）
3. 「台風観測・予報のいま」
室井ちあし（気象庁）
4. 「みらいの台風予報」
吉田龍二（理化学研究所計算科学研究機構）
5. 「気象情報から災害リスク情報へ」

- 竹見哲也（京都大学防災研究所）
6. 「台風報道のいまとみらい」
南 利幸（お天気キャスター）
 7. 「パネルディスカッション」
司会：筆保弘徳（横浜国立大学）
総合司会 小田真祐子（気象研究所）

問い合わせ先：筆保弘徳（教育と普及委員会）
TEL: 045-339-3346（横浜国立大学教育人間科学部）
E-mail: msj-ed_2016@netsoc.jp

ジュニアセッションのお知らせ

関係者の大会参加は無料です。

日時：2016年5月21日(土) (大会第4日) 10:30～12:30
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 401・402・403・405会議室 (大会ポスター会場)
主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：時々刻々変化し、人々の生活に大きな影響を及ぼす気象。若い人たちにとっても、興味は尽きないことでしょう。日本気象学会は、主として高校生世代を対象に、「ジュニアセッション」を開催しています。この企画は、生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を専門家の前で発表体験することを主な目的としています。競技ではありませんので、発表内容の優劣評価は行いません。気象や大気に対する生徒たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待しています。

発表資格：高等学校（新卒者含む）、高等専門学校（1～3学年）の個人または団体（グループ）とします。また、中学生の発表も可とします。

発表内容・形態：発表形態はポスター・セッションとします。気象・気候や大気科学の観測・研究に関するものであれば、広く発表を認めます。

申し込み方法：申し込みは日本気象学会ホームページから2016年1月11日から同年4月5日に行われました。必要事項を記入した所定の「参加申込書」の他、発表内容を要約した予稿（A4判1枚）が必要です。受理通知は同年4月中にメールでお知らせします。

参加特典：

1. 発表者の全員に対し、学会発表認定証を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨などを掲載し、顕彰します。
3. 春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を無料聴講できます。
4. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
TEL: 03-3216-4403 FAX: 03-3216-4401
E-mail: msj-ed_2016@netsoc.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第9回気象庁数値モデル研究会・第45回メソ気象研究会・第2回観測システム・予測可能性研究連絡会

日時：2016年5月17日（火）（大会前日）13:30～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「アンサンブル予報の発展と展望」

コッパナー：佐藤芳昭（気象庁数値予報課）、加藤輝之（気象研究所）、榎本 剛（京都大学防災研究所）

内容：気象庁では現在、アンサンブル予報を、週間天気予報から季節予報に現業利用しています。これらのアンサンブル予報資料の活用を目指す試みは、気象庁のみならず他の機関でも進められていますが、そのような試みは、まだまだ

だ限定的です。一方、これまで決定論的予測に頼ってきたメソ現象の予測についても、アンサンブル技術を活用した予測可能性の向上に向けた取り組みが進められています。しかしながら、その開発や結果の活用方法については、さらなる検討が必要な状況です。このため、アンサンブル技術のメソ予報等短期予報への適用に当たり、気象庁数値モデル研究会、メソ現象の予測に知見のあるメソ気象研究連絡会、及びアンサンブル予測技術に知見のある観測システム予測可能性研究連絡会と共同で、本研究会を開催することになりました。本研究会では気象庁のメソアンサンブル予報システム、週間アンサンブル予報システムについての開発状況の紹介に加えて、関連する研究活動を行っている方

に講演を依頼し、話題提供をしていただくことにしました。多くの方々のご参加と今後の連携点や活用に関する議論をお願いいたします。

プログラム：

13:30-13:40 開会挨拶

13:40-14:05 「気象庁週間アンサンブル予報システムの現状と展望」

太田洋一郎（気象庁数値予報課）

14:05-14:30 「アンサンブル予報データを用いた成層圏周極渦変動の予測可能性研究」

野口峻佑（京都大学防災研究所）

14:30-14:55 「北極海のラジオゾンデ観測データが冬の中緯度で生じる寒波の予報精度に与える影響」

佐藤和敏（極地研究所）

14:55-15:20 「アンサンブル予報データベースを用いた予測可能性研究」

松枝未遠（筑波大学計算科学研究センター/オックスフォード大学物理学部）

休憩

15:35-16:00 「気象庁メソアンサンブル予報システムの開発」

小野耕介（気象庁数値予報課）

16:00-16:25 「メソアンサンブル予報を利用した顕著現象の解析」

國井 勝・横田 祥（気象研究所）

16:25-16:50 「再生可能エネルギー発電出力量予測のためのメソアンサンブル予測」

野原大輔（電力中央研究所）

16:50-17:15 「WRF-LETKFを用いたアンサンブル洪水予測の開発、鬼怒川事例への適用」

牛山朋来（土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター）

17:15-17:30 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研究所）、小倉義光（東大気海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象研究所）

E-mail: tkato@mri-jma.go.jp

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレは1Fをご利用ください（名札を提示されるとゲートを通してもらえます）。

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2016年5月18日（水）（大会第1日）

セッション終了後～2時間程度

場所：309会議室（センター棟3F）（大会B会場）

テーマ：極域における気象庁客観解析データの再現性と利用

趣旨：現代では、世界各国の気象機関によって数値解析予報システムに基づく大気再解析が実施され、長期間に渡るほぼ均質な大気データが提供されており、極域の気候・気象研究においても欠かせないデータとなっています。最近多くの再解析データがありますが、気象庁では電力中央研究所と共同でJRA-25が開発され、その後JRA-55とバージョンを重ねられて、現在は次期のJRA-3Q（Three Quarters of a century）が計画されています。JRA-55はJRA-25に比べて放射スキームやデータ同化手法、解像度などが改良され、期間が延長されました。極域ではJRA-25でみられた成層

圏の気温バイアスがJRA-55では解消されて品質が上がっています。一方、海氷の扱い方による対流圏下層の気温バイアスは依然残り、積雪深のバグが報告されるなど、利用する上での注意点もあります。今回は、JRA長期再解析や現業客観解析などの気象庁モデルがベースとなっているデータの極域における再現性と利用について、開発者と利用者の両方から話題を提供していただき、情報共有の機会としたいと思います。また、関連する話題をお持ちの方の飛び入りの発表を歓迎します（スライド1,2枚の発表など）。

1. 「趣旨説明」 堀正岳（海洋研究開発機構）
2. 「JRA55の問題点と次期再解析に向けて」 釜塚弘隆（気象研究所）
3. 「気象研究所における海洋・海氷データ同化システムの開発」 豊田隆寛（気象研究所）
4. 「GTMP入力データセット作成を目的とした北極陸域再解析データ比較」 森淳子（国立極地研究所・海洋研究開発機構）、斎藤和之、宮崎真、末吉哲雄、GTMPグループ
5. 「北ユーラシアの降水比較」 廣田渚郎（東京大学）

問い合わせ先：大島和裕（海洋研究開発機構）

TEL: 046-867-9261

E-mail: kazuhirou@jamstec.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2016年5月20日（金）（大会第3日）

18:00～20:00

場所：309会議室（センター棟3F）（大会B会場）

テーマ：「静止衛星からの大気化学観測の新時代」

内容：2018年、韓国の静止衛星搭載センサーGEMSが打ち上げられる予定である。GEMSはOMIと同様の紫外可視分光計であり、オゾン、二酸化窒素などの化学種とエアロゾルがその観測対象である。観測範囲は日本を含む東アジアから南アジアまでを網羅しており、経済発展に伴う深刻な大気汚染地域の現状を把握できると期待されている。同時期に米国ではTEMPO、欧州ではSentinel-5Pが打ち上げ予定である、北半球の主要な地域の大気中の化学種が静止衛星から観測される時代がまもなく到来する。静止衛星からの利点は、同じ箇所を継続的に観測することができることにある。このため、周回軌道衛星からの1日1回程度の観測では把握することが難しい短寿命化学種の日内変動なども観測できるようになるであろう。静止衛星から得られた反応性化学種の時々刻々の変動の様子は、おそらく我々がまだ見たことのない未知の世界を見せてくれるであろう。現在、韓国の研究者からは日本の研究者のGEMS計画への参加・協力が期待されているが、日本が観測範囲に含まれているにも関わらず、いまだ日韓の協力は不十分である。今回の研究会では、これまでGEMSのサイエンスチーム会議に参加した経験のある3人の講演者から、GEMS計画の概要紹介、対流圏下層オゾン観測の可能性、エアロゾル観測の可能性について話題を提供してもらい、参加者で討議を行う予定である。今回の研究会が気象学会会員のGEMS計画への関心につながれば幸いである。

「GEMS計画の概要」 入江仁士

「衛星から観る中国オゾン汚染」 林田佐智子

「ひまわり8号が捉えたエアロゾルイベント」 弓本桂也

連絡先：林田佐智子（奈良女子大学）

E-mail: sachiko@ics.nara-wu.ac.jp

惑星大気研究連絡会

日時：2016年5月21日（土）（大会第4日）
18:00～21:00（予定）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センタースポーツ棟
第1研修室

テーマ：「あかつきの現況と今後」

内容：昨年の12月7日に気象衛星「あかつき」の金星周回軌道投入が成功しました。順調に各カメラによる金星大気の観測が始まっています。色々な波長による撮像により雲の動きをとらえ、それにより3次元的な風速分布を明らかにするのが「あかつき」の目的です。雲の動きから風速場を推定するなど従来の気象学と問題を共有し

ています。「あかつき」の成果により金星気象学が豊富な観測に立脚して本格的に展開することが期待されます。

今回の研究連絡会は時間が限られていますので、金星大気の観測を中心として議論をしたいと思えます。研究発表など、参加に興味のある方はご連絡をお願いします。詳細は決まり次第 ymnet などでご案内します。以下の Web ページをご覧ください。http://wtk.gfd-dennou.org/

当日の研究会には惑星気象に由来から興味をお持ちの方は勿論、「あかつき」の成功を契機に金星大気に関心を持たれた方も歓迎いたします。

連絡先：松田佳久（東京学芸大学自然科学系）

E-mail: wtk-staff@gfd-dennou.org

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会中の保育施設利用料の一部補助を行います。保育支援を希望される方は、2016年4月14日（木）までに下記担当者までご連絡下さい。それ以降の問い合わせにも極力対応させていただきます。

連絡先：浅野 準一（気象庁）

E-mail: jasano@met.kishou.go.jp

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間および昼休みにのみ、企業担当者が対応します。

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです

（2016年3月25日現在）。*の企業は5月20日（金）と21日（土）、それ以外の企業は18日（水）と19日（木）の開設を予定しています。

いであ株式会社
株式会社ウェザーニューズ*
オフィス気象キャスター株式会社*
株式会社サーフレンジョンド*
日本気象株式会社
一般財団法人日本気象協会
（五十音順）

秋季大会の予告

2016年度秋季大会は、2016年10月26日（水）～28日（金）に名古屋大学で開催される予定です。

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システム I

座長 : 小林 ちあき (気象研)

- A101 黒田 友二 (気象研) 亜熱帯ジェットの変動特性(短周期変動)
- A102 齊藤 直彬 (気象研) 気象庁季節予測システムにおけるNAOおよびAOの予測可能性
- A103 竹村 和人 (気象庁気候情報) 冬後半におけるエルニーニョ現象に伴う東西波数1成分の卓越と負の北極振動
- A104 尾瀬 智昭 (気象研) 多様なENSOと東アジアの冬季モンスーン
- A105 塩崎 公大 (京大院理) 極東域におけるEl Niñoの冬季気候への影響
- A106 小林 ちあき (気象研) 日本付近の季節変化に対するENSOの影響

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システム I

座長 : 荒木 健太郎 (気象研)

- B101 荒木 健太郎 (気象研) 南岸低気圧に伴う関東大雪時の下層低温化の要因に関する統計解析
- B102 荒木 健太郎 (気象研) 南岸低気圧に伴う関東平野の雪と雨の総観スケール環境場の違い
- B103 宮島 亜希子 (NTTドコモ) 高密度地上気象観測による関東大雪時のCold-Air Damming形成・強化過程の解析
- B104 岸 為良 (名大院環境) 2014年12月17-18日の名古屋における大雪に関する気象学的研究
- B105 中城 智之 (福井工大) 福井平野における西風時の降雨分布に対する下層風の影響
- B106 重 尚一 (京大院理) 長期TRMM 衛星データを用いたアジアモンスーン沿岸域地形性降雨の日周期変化・季節内変動の解析

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表**C 会場****相互作用**

座長：篠田 太郎（名大宇地研）

- C101 神山 翼 (ワシントン大大気) 大気ロスビー波列に起因する南極海氷の季節内変動
- C102 庭野 匡思 (気象研) 融雪期の札幌の雪面熱収支に対する雲の影響
- C103 坂 泰志 (三重大院生物資源) 三四半球をめぐる北半球起源の大気海洋間強制の東進連鎖
- C104 篠田 太郎 (名大宇地研) 高層気象観測とアルゴフロートを用いた非静力学大気海洋結合モデル CReSS-NHOESの検証
- C105 上野 健一 (生命環境系) インド亜大陸・中東部でのMCS発生に対する季節内変動に応じた陸面過程

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00～11:30 一般口頭発表

D 会場

環境気象

座長：板橋 秀一（電中研）

- D101 板橋 秀一（電中研） 2000-2011年の中国の排出量変化が東アジア域の降水成分濃度に及ぼした影響
- D102 大竹 秀明（産総研） 気象データを用いた次々世代の電力システムの在り方 ～JST CREST HARPSの取り組み～
- D103 小池 佳奈（エムティーアイ） フェーズドアレイ気象レーダの3次元データ配信スマホアプリによる実証実験結果

気象教育

座長：名越 利幸（岩大教育）

- D104 奥村 政佳（横浜国大） 未就学児童に対する気象・防災教育の取り組み ～科学絵本とタブレット端末の比較～
- D105 名越 利幸（岩大教育） 中学生版気象数値実験教材「Web-CReSS for Education」の開発－「台風」の数値実験に関する公立中での実践を通して－
- D106 関 隆則（気象予報士会） 温室効果気体の赤外線放射実験

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 一般口頭発表

A 会場

気候システムⅡ

座長：林 未知也（東大大気海洋研）

- A151 釜堀 弘隆（気象研）最新の再解析における熱帯低気圧の再現性
- A152 釜堀 弘隆（気象研）高解像度 SST 再解析 JRA-55CHS ----- 再解析システムと SST -----
- A153 林 未知也（東大大気海洋研）西風イベントと東風イベントの環境場依存性と非対称性
- A154 安田 珠幾（気象庁気候情報）2014-16年のエルニーニョ現象
- A155 卜部 佑介（気象庁気候情報）2014年以降における全球平均海面水温の顕著な上昇
- A156 廣田 渚郎（極地研）CMIP5気候モデルにおける陸上の降水日変動
- A157 松本 健吾（岡山大院教育）梅雨最盛期と盛夏期の東日本における大雨日の降水特性と総観場の気候学的解析（降水域の南北の広がりにも注目して）

座長：廣田 渚郎（極地研）

- A158 藤部 文昭（首都大都市環境）落雷死者数の長期変動および雷日数との関係
- A159 植田 知恭（岡山大院教育）日本の盛夏期の降水特性と大気場に関する総観気候学的解析
- A160 加藤 内蔵進（岡大・教育・理科）広域季節サイクルの中でみたドイツの冬における日々の気温変動と大気場（アイスランド低気圧の関わりに注目して）
- A161 加藤 内蔵進（岡大・教育・理科）ドイツの冬から春への季節進行と「冬の追い出し」に関連する季節感（東アジアとの比較の視点でみた学際的連携へ向けて）
- A162 山内 恭（極地研；総研大）GRENE 北極気候変動研究プロジェクトにおける雲観測
- A163 星 一平（新潟大）北極海水域変動が及ぼす成層圏対流圏結合への影響
- A164 谷田貝 亜紀代（東大大気海洋研）ファブリ・ペロー干渉計により観測されたアジア・オセアニア地域の夜間熱圏風の気候場

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 一般口頭発表

B 会場

降水システムII

座長：楠 研一（気象研）

- B151 佐藤 香枝 (明星電気) ダウンバースト発生時の地上稠密観測値の変化と特徴
- B152 岩下 久人 (明星電気) 地上稠密気象観測データを利用した突風予報システムの開発
- B153 岩井 宏徳 (NICT) PAWRとドップラーライダーで観測された海上竜巻
- B154 佐藤 晋介 (NICT) 沖縄PAWRで観測されたメソサイクロンの3次元詳細構造
- B155 足立 透 (気象研) フェーズドアレイレーダーで観測されたメソサイクロンの立体的動態とWall Cloudの関係
- B156 足立 透 (気象研) フェーズドアレイレーダーを用いた線状降水帯における対流セルの超高速立体スキャン観測
- B157 楠 研一 (気象研) フェーズドアレイレーダーのための竜巻渦3次元探知・追跡アルゴリズムー初期動作試験ー
- B158 楠 研一 (気象研) 突風をもたらす渦探知・追跡アルゴリズムへのDRAWデータの適用実験ー2015年9月に千葉県で発生した突風への適用ー

座長：鈴木 真一（防災科研）

- B159 鈴木 真一 (防災科研) X-NET 及び XRAIN のレーダーで2015年8月17日に観測された南関東の積乱雲中の渦について
- B160 南雲 信宏 (気象研) 2015年8月12日に観測されたメソサイクロンの構造と雲物理的特徴
- B161 栃本 英伍 (東大大気海洋研) 竜巻を生ずる温帯低気圧の構造と環境場
- B162 石川 朗子 (東京学芸大自然科学) 地上大気電場とXバンドMPレーダを用いた雷雲内電荷分布推定と降雹予測可能性
- B163 鈴木 智幸 (東京学芸大自然科学) 富士山から見た巨大ジェットの特徴
- B164 小名木 すみれ (東京学芸大自然科学) 冬季スプライト光学観測と親雷電波観測によるスプライト形状と親雷放電経路
- B165 高橋 周作 (東京学芸大自然科学) 高エネルギー制動X線検知時における冬季雷雲内電荷領域の推定

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 一般口頭発表

C 会場

気象予報・データ同化

座長 : 国井 勝 (気象研)

- C151 岡本 幸三 (気象研) 領域数値予報システムを用いた, ひまわり8号の曇天域赤外輝度温度同化
- C152 国井 勝 (気象研) NHM-LETKFを用いたひまわり8号高頻度大気追跡風データの大雨事例へのインパクト実験
- C153 本田 匠 (理研計算科学) ひまわり8号輝度温度観測のデータ同化研究:台風Soudelor (2015)事例
- C154 青梨 和正 (気象研) 次世代のマイクロ波イメージャ降水リトリバルアルゴリズム開発 (その4)
- C155 青梨 和正 (気象研) Neighboring Ensembleに基づく変分同化法を使った2014年台風11号事例への衛星雲・降水観測データの同化実験 (その3)
- C156 瀬古 弘 (気象研) 可搬型水蒸気ライダーデータの同化実験
- C157 前島 康光 (理研計算科学) 局地的豪雨予測における高頻度地上観測データ同化のインパクト

座長 : 大塚 成徳 (理研計算科学)

- C158 大塚 成徳 (理研計算科学) フェーズドアレイ気象レーダを用いた三次元降水補外予測の実時間実行に向けた検討
- C159 小槻 峻司 (理研 AICS) NICAM-LETKFを用いた全球降水マップGSMaPのアンサンブルデータ同化実験
- C160 近藤 圭一 (理研計算科学) 10240メンバーのアンサンブルデータ同化実験に基づいた大気の非ガウス性の調査
- C161 横田 祥 (気象研) 稠密な実観測データの同化によるLETKFとEnVARの比較
- C162 石橋 俊之 (気象研) 観測誤差共分散構造の診断とその利用
- C163 石橋 俊之 (気象研) 大気海洋結合同化システムの開発

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 一般口頭発表

D 会場

大気力学

座長 : 堀之内 武 (北大院地球環境)

- D151 今村 剛 (宇宙研) 金星に到着した探査機「あかつき」の現状
- D152 高木 征弘 (京産大・理) 金星気象学のための「あかつき」データの紹介
- D153 高木 征弘 (京産大・理) 金星大気の大気熱潮汐波
- D154 堀之内 武 (北大院地球環境) 金星探査機「あかつき」のデータを用いた雲追跡について
- D155 安藤 紘基 (ISAS/JAXA) 雲解像モデルを用いた金星大気重力波の2次元数値実験
- D156 竹広 真一 (京大数理研) 潮汐固定されたガス惑星の大気大循環の多様性 -- 入射中心星放射強度に対する依存性 --
- D157 佐々木 洋平 (京大院理) 高速回転する薄い球殻内の熱対流により生成される表層縞状構造への力学的境界条件の影響
- D158 齋藤 泉 (名工大院工) 回転球面上の二次元乱流からの帯状流形成に関する準保存量について
- D159 岩山 隆寛 (神戸大院理) α 乱流におけるエンストロフィー慣性領域の力学
- D160 板野 稔久 (防衛大地球海洋) 円筒形の渦sheet上の非軸対称擾乱の最適励起 (II)
- D161 相木 秀則 (名大ISEE) 中緯度惑星波と赤道波のエネルギーフラックスの全球シームレス解析に向けて
- D162 野田 彰 (気象研) 一般化された変換Euler 平均(GTEM)から見た平均子午面循環(II) 絶対角運動量保存とEliassen-Palm フラックス
- D163 原田 やよい (気象研) JRA-55を用いた北半球冬季の惑星規模波動の伝播特性解析 (第3報) ~2013/14年北半球冬季に見られた東西波数2の卓越に着目して~

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムⅢ

座長 : 望月 崇 (JAMSTEC)

- A201 望月 崇 (JAMSTEC) 四次元変分法結合データ同化システムを用いた数年先までの気候予測
- A202 塩竈 秀夫 (環境研) 気温と降水量の極端現象の記録更新に関する要因分析
- A203 鈴木 健太郎 (東大大気海洋研) 全球平均降雨量の気候変化におけるエアロゾルの寄与
- A204 小畑 淳 (気象研) 地球システムモデルの検証: 巨大火山噴火の硫酸エアロゾル
- A205 新藤 永樹 (気象研) 気象研究所全球気候モデルの物理過程の改良
- A206 小倉 知夫 (環境研) 雲の速い応答の不確実性と瞬時放射強制力
- A207 川合 秀明 (気象研) 下層雲に関わる安定度指標と下層雲の将来変化
- A208 八木 綾子 (ウェザーニューズ) ドップラーライダーで観測された雲底の鉛直速度の確率密度分布

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システムⅢ

座長 : 牛山 朋來 (土研ICHARM)

- B201 中村 雄飛 (東大大気海洋研) 平成27年9月関東・東北豪雨をもたらした降水帯の生成要因
- B202 津口 裕茂 (気象研) 「平成27年9月関東・東北豪雨」の発生要因について
- B203 北畠 尚子 (気象研) 平成27年9月関東・東北豪雨に関連した総観場の特徴
- B204 牛山 朋來 (土研ICHARM) WRF-LETKFを用いた2015年鬼怒川洪水のアンサンブル予測実験
- B205 加藤 輝之 (気象研) 2014/2015年梅雨期の下層水蒸気の動向 ～名瀬・南大東島での高層ゾンデ強化観測結果～
- B206 横山 千恵 (東大大気海洋研) 梅雨期の降雨特性に対する亜熱帯ジェットと下層対流不安定度の影響
- B207 二宮 洸三 (無所属) 東シナ海域の寒気内meso-scale低気圧(PMC)の発生期と発達期の環境場
- B208 柳瀬 亘 (東大大気海洋研) オホーツク海上のPolar Lowの気候学への取り組み

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯・台風 I

座長 : 吉田 龍二 (理研計算科学)

- C201 稲津 将 (北大院理) 北太平洋における海面水温が台風経路に及ぼす影響
- C202 吉田 龍二 (理研計算科学) 台風発生環境場に特徴的な流れ場パターンの分布について
- C203 嶋田 宇大 (気象研) GSMaP から算出した台風の軸対称度と強度変化の関係の調査
- C204 山口 宗彦 (気象研) 衛星解析と全球アンサンブル予報を利用した台風発生予報
- C205 山崎 聖太 (横浜国大院) 台風アンサンブルシミュレーションを用いた新たな台風防災情報
- C206 吉岡 大秋 (京大院理) アンサンブルダウンスケール実験における台風発生の初期値依存性に関する解析—2013年台風4号の事例—
- C207 堀口 桃子 (三重大院生物資源) 2011年台風6号がUターンした理由とは その2
- C208 金井 惇平 (三重大院生物資源) 日本の南海部で急激に衰弱した1997年台風13号

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

観測手法 I

座長 : 小司 禎教 (気象研)

- D201 山本 哲 (気象研) 地上気温観測における日射/放射影響の評価—マイクロ波放射計輝度温度利用の検討—
- D202 志藤 文武 (気象研) 東京大手町露場の気温分布と風速との関係
- D203 小司 禎教 (気象研) 国土地理院GNSS観測網と地上比湿を用いた水蒸気3次元構造の推定
- D204 川村 誠治 (NICT) 地上デジタル放送波を用いた水蒸気観測手法の研究開発—反射波を用いた初期観測結果—
- D205 工藤 玲 (気象研) スカイラジオメータによる雲, エアロゾル, 水蒸気, オゾンの推定
- D206 西澤 智明 (環境研) 多波長Mie-Ramanライダーによるエアロゾル地上ネットワーク観測
- D207 乙部 直人 (福大理) 地上/火星用 小型LIDARの開発と風洞試験

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムIV

座長 : 長谷川 聡 (土研ICCHARM)

- A301 鈴木 香寿恵 (統数研) ISM-確率台風モデルの開発 –その2–
- A302 杉 正人 (気象研) 将来温暖化時の確率降水量マップの作成 (2)
- A303 長谷川 聡 (土研ICCHARM) 比較SPIを用いた将来の降水量変化の評価
- A304 谷田貝 亜紀代 (東大大気海洋研) 日本付近のAtmospheric Riverの出現特性
- A305 谷貝 勇 (元気象大) 地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について (その8) –「東北地方でのみ起こった梅雨明けの遅れ」の原因について–
- A306 楠 昌司 (気象研) 地球温暖化による梅雨の将来変化
- A307 岡田 靖子 (京大防災研) 領域気候d4PDFデータによる梅雨降水の温暖化時将来変化
- A308 遠藤 洋和 (気象研) アンサンブル気候予測データベース (d4PDF) における東アジアの極端降水の将来変化
- A309 堀之内 武 (北大院地球環境) 夏季の大陸東岸から洋上にかけての降水帯とその日々の分布の概念モデル

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システムIV

座長 : 橋本 明弘 (気象研)

- B301 道端 拓朗 (九大院総理工) A-Train衛星観測データを活用した気候モデルにおける暖かい雨の雲微物理過程の評価
- B302 中村 晃三 (JAMSTEC/DSEP) ビン法雲微物理モデルを使った積雲境界層の再現実験 (凝結核の活性化スキームと関連して)
- B303 久芳 奈遠美 (東大大気海洋研) 暖かい雨に対する雲物理スキーム比較実験
- B304 大西 領 (JAMSTEC) 乱流が雲粒子の衝突成長を促進する効果のレイノルズ数依存性
- B305 橋本 明弘 (気象研) JMA-NHM氷飽和調節適用の影響評価
- B306 鈴木 賢士 (山口大農) 固体降水地上直接観測による融解層内の降水相変化と密度特性
- B307 田尻 拓也 (気象研) 鉱物ダスト粒子氷晶核能の温度依存性
- B308 村上 正隆 (気象研) 乾燥・半乾燥地域における降水強化に関する先端的研究

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯・台風Ⅱ

座長 : 村田 文絵 (高知大理)

- C301 加藤 雅也 (名大宇地研) CReSS-NHOES を用いた伊勢湾台風の気象海洋結合実験
- C302 金田 幸恵 (名大ISEE) 21世紀末を想定した擬似温暖化実験による伊勢湾台風の将来最大強度推定
- C303 竹見 哲也 (京大防災研) 伊勢湾台風の強さは地球温暖化時にどのように変わるのか?
- C304 伊東 瑠衣 (京大防災研) 高緯度地域まで北上する台風がもたらす強風ハザードへの温暖化の影響
- C305 神山 翼 (ワシントン大大気) 大気太陰潮汐による降雨微小変動現象の検出およびそれを用いた相対湿度に対する熱帯降雨の感度の推定
- C306 小寺 邦彦 (名大・宇地研) 2007年ジャワ島洪水における大循環変動の役割
- C307 村田 文絵 (高知大理) インド・チェラプンジにおける活発期の特徴
- C308 小柴 厚 (筑波大院生命環境) JRA-55 速度ポテンシャルによる熱帯東西循環の評価

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

観測手法Ⅱ

座長 : 前坂 剛 (防災科研)

- D301 星野 俊介 (高層台) 測風ライダーを用いた火山灰の粒径分布推定の試み
- D302 佐藤 英一 (気象研) 気象レーダーを用いた噴煙高度の確率的推定手法について
- D303 真木 雅之 (地域防災教育研究センター) 火山噴煙のZ-RA関係式
- D304 森 昂志 (京大生存研) 小型無人航空機・MUレーダー同時観測実験
- D305 大野 裕一 (NICT) 地上雲レーダ観測による鉛直ドップラ速度の統計解析
- D306 前坂 剛 (防災科研) 雲レーダーを用いた積乱雲へ成長する積雲の観測
- D307 民田 晴也 (名大宇地研) 降雪粒子の立体形状とフラクタル次元

大会第4日 [5月21日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

中高緯度大気

座長 : 平沢 尚彦 (極地研)

- A401 平沢 尚彦 (極地研) 2012/13年夏に南極氷床表面に残された氷の形成過程
- A402 鈴木 香寿恵 (統数研) 南極域における降雪をもたらす雲パターン検出手法の検討
- A403 森岡 優志 (JAMSTEC/APL) Role of Weddell Sea ice variability in southern African climate
- A404 山崎 哲 (JAMSTEC) 新潟での里雪・山雪と偏西風蛇行パターン
- A405 平田 英隆 (九大院理) 暖流域からの顕熱供給が温帯低気圧の急発達へ果たす役割
- A406 佐藤 尚毅 (学芸大) MJOの位相が南岸低気圧に与える影響

大会第4日 [5月21日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

放射

座長 : 山崎 明宏 (気象研)

- B401 竹中 栄晶 (JAXA) ひまわり8号2.5分観測値を用いた日射量及び太陽光発電出力の準リアルタイム解析及び短時間予測手法の開発
- B402 関口 美保 (海洋大) 雲エアロゾル相互作用の港湾・海岸地域における特性について
- B403 藤川 雅大 (九大応力研) 多視野角・多重散乱ライダーによる大気中の粒子タイプ識別手法の開発
- B404 太田 晃平 (九大応力研) 衛星・地上型アクティブセンサの複合利用によるニーオールソンの雲特性の解析
- B405 佐藤 可織 (九大応力研) 衛星搭載アクティブセンサを用いた北極域の雲特性解析
- B406 岡本 創 (九大応力研) CloudSat-CALIPSO-AIRSの複合利用による氷粒子微物理特性の形成メカニズムの全球解析
- B407 青木 輝夫 (気象研) グリーンランド氷床の衛星抽出雪氷物理量に対する雲検知アルゴリズムとMODIS感度経年変化の影響
- B408 山崎 明宏 (気象研) 分光型日射計による精密放射観測装置の開発

大会第4日 [5月21日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯・台風Ⅲ

座長：荻野 慎也 (JAMSTEC)

- C401 勝俣 昌己 (JAMSTEC) インドネシア海洋大陸域における海陸集中観測“Pre-YMC”
- C402 横井 覚 (JAMSTEC) 海陸同期ラジオゾンデ観測でとらえたスマトラ島西岸域の日変化
- C403 安永 数明 (富山大院理工) 「みらい」MR15-04で観測された下層雲と上層雲の日変動
- C404 伍 培明 (JAMSTEC/DCOP) MJOに伴う対流活発な位相通過時にスマトラ島で観測された対流システムの特徵
- C405 那須野 智江 (JAMSTEC) 2015年11-12月の海大陸集中観測を対象とする全球非静力学数値計算
- C406 末松 環 (東大院) Zonal SST difference as a potential environmental factor supporting the realization of the Madden-Julian Oscillation
- C407 荻野 慎也 (JAMSTEC) 熱帯域における沿岸降水気候学
- C408 山中 大学 (JAMSTEC) 日射起源の水平（強制）対流に関する統一的再考

大会第4日 [5月21日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

観測手法Ⅲ

座長 : 瀬戸 心太 (長大院工)

- D401 渡邊 武志 (東海大TRIC) 衛星観測から推定された雲特性量を用いた地表面日射量変動の推定手法
- D402 岩渕 弘信 (東北大院理) ひまわり8号の高頻度観測データを用いた雲の解析
- D403 山本 雄平 (京大院理) ひまわり8号データを用いた地表面温度の算出
- D404 小山 亮 (気象研) 衛星マイクロ波探査計ATMSを用いた台風中心気圧推定法の開発及び検証
- D405 瀬戸 心太 (長大院工) GPMのマイクロ波放射計に適用する陸上降雨判定データベースの作成
- D406 弓場 良樹 (近大理工) GSMaPのアルゴリズム別推定降水量比較

大会第4日 [5月21日(土)] 13:30~17:00 専門分科会

B 会場

雷放電の理解とその応用

座長 : 吉田 智 (気象研)

- B451 呉 亭 (阪大院工) New 3-D Lightning Location Results of BOLT
- B452 吉田 智 (気象研) 積乱雲内の鉛直流と雲放電電荷構造の関連
- B453 大石 哲 (神戸大都市安全) 偏波ドップラーレーダーと雷探知装置を用いた雷雲内電荷電場推定手法に関する研究
- B454 諸田 雪江 (ウェザー・サービス) 雲解像モデルを用いた雷シミュレーションにおける中和電荷分配方法の検討 ～三次元標定観測データとの比較～
- B455 加藤 雅也 (名大宇地研) 雲解像モデルを用いた北陸冬季雷雲の電荷蓄積過程の解析
- B456 小林 文明 (防大地球) 積乱雲タレットの発達と落雷開始の関係 (Convection initiationとCG initiation)

休憩

座長 : 林 修吾 (気象研)

- B457 櫻井 南海子 (防災科研) 関東の暖候期に発生する積乱雲に対する上昇流情報を用いた発雷指標の比較検討
- B458 林 修吾 (気象研) 高解像度モデルによる2015年夏季の再現実験結果
- B459 芳原 容英 (電通大) 日本トータル雷ネットワークを用いた極端気象の初期解析結果
- B460 道本 光一郎 (ウェザー・サービス) フェーズドアレイ気象レーダー (PAWR) を利用した極端気象現象 (落雷, 降雹等のシビアハザード) 予測に関する研究
- B461 吉川 栄一 (JAXA) 避雷飛行支援システムの開発に向けた庄内空港周辺における冬季雷観測
- B462 森本 健志 (近畿大) ISS/JEM-GLIMSミッションによる雷放電の電波および光学観測
- B463 岩崎 博之 (群馬大教育) 落雷エネルギーと極性に注目した東日本における春期落雷の特徴

大会第4日 [5月21日(土)] 13:30~17:00 一般口頭発表

C 会場

物質循環

座長 : 林田 佐智子 (奈良女子大・理)

- C451 石戸谷 重之 (産総研) 飛騨高山森林サイトにおける大気中酸素濃度観測に基づく2005-2015年の全球炭素収支
- C452 柴田 泰邦 (首都大システムデザイン) 大気境界層内CO₂濃度高度分布のライダー連続観測
- C453 佐伯 田鶴 (JAMSTEC) Influence of Fossil Fuel Emissions on CO₂ Flux Estimates by Atmospheric Inversions
- C454 林田 佐智子 (奈良女子大・理) 中国中東部におけるオゾン増加:衛星観測とモデルシミュレーションの比較
- C455 出牛 真 (気象研) 都市ヒートアイランドによる局地循環の変化がオゾン分布に及ぼす影響
- C456 廣岡 俊彦 (九大院理) 衛星データから見たオゾン量の経年変動と力学場の関係(III)
- C457 鶴田 治雄 (RESTEC) 大気環境常時測定局で使用済みテーパー紙の分析による福島第一原子力発電所事故直後における東日本での大気中放射性セシウムの時空間分布(その2):高濃度現象とその気象場の解析
- C458 渡邊 明 (共生システム理工学類) 放射性Csの沈着速度について

座長 : 青木 一真 (富山大院理工)

- C459 及川 栄治 (環境研) ライダー観測のためのエアロゾル粒子モデルの作成
- C460 朴 祥緒 (九大応力研) 衛星搭載UV-Visibleセンサーでのエアロゾルの有効高度算出
- C461 青木 一真 (富山大院理工) 北海道における太陽放射観測から得られたエアロゾルの光学的特性
- C462 金谷 有剛 (JAMSTEC) 福江島における大気中ブラックカーボン質量濃度の長期観測2009-2015:湿性除去過程の統計的解析
- C463 甲斐 憲次 (名大院環境) モンゴル国ダランザドガドにおけるアジアダストのシーロメーター観測:2015年4月に観測された二重ダスト構造の解析

大会第4日 [5月21日(土)] 13:30~17:00 一般口頭発表

D 会場

大気境界層

座長 : 稲垣 厚至 (東工大)

- D451 河合 慶 (名大院環境) 2015年5月におけるゴビ砂漠でのパイバル観測
 D452 土方 基由 (東工大理工) Thermal Image Velocimetry のヘリコプター観測への適用
 D453 重田 祥範 (鳥環大院) 長野市を対象とした夏季の温熱環境調査 (1) 一日最低・最高気温の決定要因
 D454 荻原 悠季 (立正大地球環境) 長野市を対象とした夏季の温熱環境調査 (2) 熱中症リスクの評価
 D455 中村 祐輔 (立正大地球) 熊谷地方気象台における地上気温の空間代表性の調査

座長 : 重田 祥範 (鳥環大院)

- D456 高咲 良規 (立正大地球環境) 立正大学熊谷キャンパスにおける晴天日で弱風日のドップラーライダーによる水平風の観測
 D457 吉田 敏哉 (京大院理) 実在都市における境界層乱流の時空間構造の解析
 D458 稲垣 厚至 (東工大) 格子ボルツマン法LESを用いた都市気流の大規模計算
 D459 北村 祐二 (気象研) 移流項の差分化によって生じるエネルギー散逸率の推定
 D460 米原 仁 (気象庁数値予報) 気象庁全球モデルにおけるEDMF型境界層スキームの開発

大会第1日 [5月18日(水)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P101 永田 玲奈 (無所属) 日本の夏季降水量に見られる季節進行の長期変動 (1901~2000年)
- P102 宇賀神 惇 (秋田県立大院生物資源) 日本の暑夏年・冷夏年における下部成層圏の大気場の特徴
- P103 荒井 建伍 (富山大院理工) 主成分解析を用いた北陸地域における冬季の降水分布の特徴
- P104 村田 昭彦 (気象研) 地域気候アンサンブル実験における日本付近の極端な降水量の将来予測
- P105 田中 実 (無所属) 夏の小笠原高気圧とBermuda高気圧の季節変化
- P106 堀 正岳 (JAMSTEC/IACE) バレンツ・カラ海を起点とするユーラシア大陸上の寒気の季節内変動とその経年変化
- P107 馬場 賢治 (酪農大環境) 冬季南極海における海水密度度の季節内変動とENSOおよびSAMイベントとの関係について
- P108 村崎 万代 (気象研) JRA-55CHSを境界条件に用いたNHMによる大気応答その2 梅雨期東シナ海での黒潮上での対流活動
- P109 大和田 浩美 (気象研) 台風強度予報に向けた統計力学モデルSHIPSの開発
- P110 阿部 学 (JAMSTEC) 将来の地域降水量変化におけるエアロゾル排出量シナリオへの依存性
- P111 村上 樹 (東北大院理) 太平洋北西部における大気エアロゾルの種類と鉛直分布
- P112 片岡 良太 (東京理科大院理) 富士山における新粒子生成の発生要因
- P113 中島 健 (理科大理工) 平均放射温度評価手法における誤差要因の定量把握
- P114 大西 将徳 (神戸大院理) Line-by-line 放射計算による湿潤大気2つの圏界面レジーム
- P115 Jeong HanByeol (PKNU) Study on the barotropic instability of steady Rossby-Haurwitz wave
- P116 大島 和裕 (JAMSTEC/IACE) 夏季太平洋側北極海における海上気象の予報精度
- P117 伊藤 純至 (気象研) 台風全域ラージ・エディ・シミュレーションで再現された壁雲内の組織構造
- P118 古澤 文江 (名大宇地研) TRMM衛星とGPM衛星の陸面マイクロ波射出率分布
- P119 山本 真之 (NICT) ウィンドプロファイラ用デジタル受信機の開発
- P120 磯田 総子 (NICT) フェーズドアレイ気象レーダーのデータ品質管理~ビッグデータ同化に向けて~
- P121 松井 貴裕 (千葉工大院工) 船舶レーダーによる降雨鉛直観測の試み
- P122 梶野 瑞王 (気象研) 雲微物理過程のエアロゾル均一核形成の不確定性に対する感度
- P123 山岸 孝輝 (RIST) 雲解像モデルCReSS雲物理過程のGPUへの適用性について
- P124 山田 芳則 (気象研) Ku バンドレーダーによる降雪雲の観測
- P125 湯浅 惣一郎 (高知大院理) 高速度カメラが捉えた雨滴や雪片の形状
- P126 大東 忠保 (名大宇地研) 一層の混相域をもつ北極域混相雲とその環境場の鉛直プロファイル
- P127 濱田 篤 (東大大気海洋研) 夏季日本域の極端降水・極端対流イベントに関わる環境場の違い
- P128 青木 翔太 (立正大地球環境) WRFを用いた那須おろしの立体構造の解析
- P129 春日 悟 (新大院) 寒冷渦・竜巻間の階層構造
- P130 加藤 亮平 (防災科研) 局地的短時間強雨に対する気象庁高解像度降水ナウキャストの予測精度検証—Fractions Skill Score による評価—
- P131 武村 一史 (京大院理) 重合格子法における補間法による保存性の検証
- P132 平野 竜貴 (防衛大地球海洋) 都市域の二酸化炭素輸送に寄与する乱流渦スケール

大会第1日 [5月18日(水)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P133 中島 虹 (首都大院都市環境) 東京タワーの気温を用いた晴天弱風日の夜間における温位鉛直分布の特徴
- P134 萩野谷 成徳 (気象研) 気象データの特別長期平均と地形特徴
- P135 菅原 広史 (防大) 都市内樹林における二酸化炭素フラックスの季節変化
- P136 佐藤 陽祐 (理研計算科学) 関東地方における夏季を対象とした緑化効果の地域特性に関する考察

大会第2日 [5月19日(木)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P201 友近 全志 (富山大院理工) 冬季北陸地域における降水量の変動
- P202 若月 泰孝 (筑波大アイソ) 高解像RCM実験情報を利用した統計的ダウンスケーリング
- P203 稲津 将 (北大院理) 北海道東部における年最大土壌凍結深の将来予測
- P204 坪田 幸政 (桜美林大自然科学系) 東京における降水量の経年変化
- P205 仲江川 敏之 (気象研) 日雨量グリッドデータを用いたパナマの雨季の入りと明け平年日の推定
- P206 鈴木パーカー 明日香 (立正大地球環境) 暑熱による労働時間制限の将来予測
- P207 川崎 健太 (三重大院生物資源) The role of the cold Okhotsk Sea in the strengthening the Pacific subtropical high and Baiu precipitation
- P208 宮崎 駿 (横浜国大) 関東・東北豪雨を対象にした擬似温暖化実験
- P209 青野 憲史 (東北大院理) 風蒸発が台風の組織化に及ぼす影響
- P210 深堀 正志 (気象大) 携帯型分光放射計を用いた大気エアロゾルの偏光分光観測
- P211 芦田 裕子 (気象大) 太陽放射スペクトル観測から得られた酸素 A バンドと B バンドの光学特性
- P212 清水 厚 (環境研) 2波長偏光ライダーによる黄砂時のエアロゾル光学特性分類
- P213 大和 昂貴 (山梨大生命環境) デニューダ・フィルターパック法によるエアロゾル及びガス状有機態窒素成分の測定
- P214 河野 恭佑 (千葉工大院工) 千葉工業大学津田沼キャンパスにおけるWBGT分布と高度変化
- P215 小田 真祐子 (気象研) 渦ロスビー波と重力波との相互作用のメカニズム
- P216 藤原 圭太 (九大理) 流跡線解析による台風の水蒸気コンベアベルトの形成過程の考察
- P217 高野 雄紀 (東大・理) 北西太平洋域におけるフィラメント状の水蒸気輸送
- P218 落合 啓 (NICT) サブミリ波帯衛星リムサウンディングによる中層大気観測の構想
- P219 橋口 浩之 (京大生存研) MUレーダー実時間アダプティブクラッター抑圧システムの開発
- P220 岩井 宏徳 (NICT) PAWRのドップラー速度測定精度検証—ラジオゾンデとの比較—
- P221 青木 誠 (NICT) PAWRのドップラー速度測定精度検証—ドップラーライダーとの比較—
- P222 高橋 直也 (東北大院理) 東西熱帯太平洋における降水と雲物理特性の関係
- P223 佐藤 陽祐 (理研計算科学) ビン法雲モデルとDownscalingを用いた雲・エアロゾル相互作用に関する数値実験 ~その1:航空機観測と衛星観測を用いたモデルの妥当性評価~
- P224 中井 専人 (防災科研・雪氷) レーダー・降雪粒子同時観測に基づくZe-Rとその誤差要因
- P225 山下 克也 (防災科研・雪氷) 雪崩を引き起こしやすい角板結晶の粒径-落下速度関係
- P226 小林 和貴 (京大院理) 熱帯域と中緯度における層状性降水の鉛直プロファイルの違い
- P227 鶴沼 昂 (京大防災研) 日本の暖候期に発生する準停滞性降水系の組織構造に対する水平風の鉛直シアの役割
- P228 瀬古 弘 (気象研) LETKF を利用した平成26年8月19~20日の広島豪雨の再現実験
- P229 林 修吾 (気象研) 「一発雷」の発生頻度と季節変化
- P230 大塚 道子 (気象研) ひまわり8号高頻度大気追跡風のデータ同化実験
- P231 姜 炫遠 (PKNU) A scalable High-order Spherical Laplacian Implicit Filter for the Cubed-sphere Spectral Element Dynamical Core
- P232 板倉 拓哉 (理科大理工) 人体の温熱感覚器を用いた都市熱環境評価に関する実験的検討

大会第2日 〔 5月19日(木) 〕 11:30~12:30 **ポスター・セッション**

- P233 荒木 沙耶 (防衛大地球海洋) 都市域の熱フラックスと人工排熱に関する考察
- P234 早崎 将光 (環境研) 冬季・春季日本における粒子状物質広域高濃度時の気象条件 (第2報) : 高濃度時の気温逆転層

大会第3日 [5月20日(金)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P301 荒川 理 (筑波大生命環境) アジアモンスーン水循環に対する地形解像度の影響
- P302 足立 幸徳 (理研計算科学) 関西地域の夏季降水を対象としたSCALEによる将来変化予測(その1)
- P303 福田 崇文 (高知大理) 四国平野部における降雪の地域特性
- P304 杉本 志織 (JAMSTEC) 水平解像度および積雲対流スキームが熱帯陸域の降水特性に及ぼす影響
- P305 山森 美穂 (都留文大) ラジオゾンデデータとスペクトル解析に基づく南極昭和基地における対流圏水平風変動の特性
- P306 山口 文彬 (気象大) 北半球における海洋前線の強化と温帯低気圧活動の変化
- P307 吉田 聡 (JAMSTEC/APL) 北西太平洋海面水温前線に対する大気応答実験
- P308 大和田 浩美 (気象研) ひまわり8号の領域3観測による台風周辺の大気追跡データの利用
- P309 原 由香里 (九大応力研) 多波長ミー・ラマンライダーから得られたエアロゾル光学特性と混合状態
- P310 財前 祐二 (気象研) 冬季つくばにおけるエアロゾル吸湿特性 (κ) の変化の特徴
- P311 梶野 瑞王 (気象研) エアロゾル湿性除去過程に関する物理・化学同時観測
- P312 久慈 誠 (奈良女子大理) 奈良におけるエアロゾルの微物理特性と気象要素の関係
- P313 太田 芳文 (気象研) 随伴放射伝達解法を用いた線形放射モデルの開発
- P314 須長 智洋 (筑波大院生命環境) 自己組織化マップ (SOM) を用いた AO と NAO の違いについての解析
- P315 西田 侑加 (九大院総理工) 金星下層大気が中層大気スーパーローテーションに与える影響
- P316 角 ゆかり (名大院環境) 衛星観測および再解析データを用いた準二日振動の鉛直モード展開
- P317 石田 春磨 (気象研) SVMを応用した雲判定アルゴリズムにおける誤判定修正及び特徴量選択方法の構築
- P318 加藤 万莉絵 (三菱電機) 交互送信交互受信時の送信時間ずれが観測データに与える影響
- P319 箕輪 昌裕 (古野電気) マルチレーダーネットワークによる3次元風速場解析
- P320 足立 アホロ (気象研) 自己整合法に基づく粒径分布抽出手法のC-band 二重偏波レーダーのPPI観測への利用
- P321 山田 芳則 (気象研) 氷相 two-moment バルク微物理モデルの開発
- P322 齋藤 翼 (防衛大地球海洋) シーディング手法を用いた降水抑制シミュレーション
- P323 越田 智喜 (いであ(株)) レーダ雨量計を用いた降雪量の定量観測精度向上
- P324 平沢 尚彦 (極地研) 陸別で降雪量を観測している測器の特性と課題
- P325 若月 泰孝 (筑波大アイソ) 理想化数値実験による梅雨前線帯の降水システムの構造解析
- P326 大元 和秀 (九大院理) 広島豪雨をもたらした線状降水帯の数値シミュレーション
- P327 宇河 拓未 (航空自衛隊) WPR及び数値シミュレーションを用いた乱気流遭遇事例の解析
- P328 益子 渉 (気象研) 超高解像度数値シミュレーションによる竜巻の詳細構造の解析 (第3報)
- P329 寺崎 康児 (理研計算化学) NICAM-LETKFシステムを使った全球28kmデータ同化実験
- P330 今井 弘二 (宇宙研) アクティブラーニングを提供するウェブサービス—Cross-Cutting Comparisons (C3)—
- P331 山森 賢也 (東京理科大院理工) 被験者実験に基づくフラクタル日除けの快適性評価

大会第3日 [5月20日(金)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P332 田中 清敬 (東京理科大院理) 東京スカイツリーを用いた2015年の東京における地表と上空の粒子の挙動について
- P333 金子 凌 (東京理科大院理) 海風流れに及ぼす都市幾何の影響評価
- P334 渡邊 貴典 (首都大院都市環境) 気象要素の年々変動が森林のオゾン吸収量に与える影響
- P335 宮下 敦 (成蹊気象観測所) 観測開始から90年を経過した成蹊気象観測所

大会第4日 [5月21日(土)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P401 岩崎 杉紀 (防衛大地球海洋) 富士山測候所で観測された積乱雲の雲頂からジャンプする雲
- P402 関根 一夫 (久慈川のシガ研究会) 久慈川の水温測定によるシガ(晶氷)発生予測と観光への活用
- P403 水瀬 正雄 (長岡市) 東京における大気圏外の太陽輻射量と気温の日別平滑平年値の関係について
- P404 田村 美奈 (筑波大院生命環境) 北半球の自然変動が十年スケールの地上気温変動に及ぼす影響についての研究
- P405 村山 昌平 (産総研) 南鳥島における大気中二酸化炭素の安定同位体比の観測
- P406 高野 哲夫 (気象予報士会) ニューラルネットワークを用いた山形県内の冬季降水域・気温分布の解析

講演者索引

< A >

Abe Manabu (阿部 学) P110
 Adachi Ahoro (足立 了和) P320
 Adachi Sachio (足立 幸穂) P302
 Adachi Toru (足立 透) B155
 Adachi Toru (足立 透) B156
 Aiki Hidenori (相木 秀則) D161
 Ando Hiroki (安藤 紘基) D155
 Aoki Kazuma (青木 一真) C461
 Aoki Makoto (青木 誠) P221
 Aoki Shota (青木 翔太) P128
 Aoki Teruo (青木 輝夫) B407
 Aonashi Kazumasa (青梨 和正) C154
 Aonashi Kazumasa (青梨 和正) C155
 Aono Kenji (青野 憲史) P209
 Arai Kengo (荒井 建伍) P103
 Arakaswa Osamu (荒川 理) P301
 Araki Kentaro (荒木 健太郎) B101
 Araki Kentaro (荒木 健太郎) B102
 Araki Saya (荒木 沙耶) P233
 Ashida Yuko (芦田 裕子) P211

< B >

Baba Kenji (馬場 賢治) P107

< D >

Deushi Makoto (出牛 真) C455

< E >

Endo Hirokazu (遠藤 洋和) A308

< F >

Fujibe Fumiaki (藤部 文昭) A158
 Fujikawa Masahiro (藤川 雅大) B403
 Fujiwara Keita (藤原 圭太) P216
 Fukabori Masashi (深堀 正志) P210
 Fukuda Takafumi (福田 崇文) P303
 Furuzawa Fumie (古澤 文江) P118

< H >

Haginoya Shigenori (萩野谷 成徳) P134
 Hamada Atsushi (濱田 篤) P127
 Hara Yukari (原 由香里) P309
 Harada Yayoi (原田 やよい) D163
 Hasegawa Akira (長谷川 聡) A303
 Hashiguchi Hiroyuki (橋口 浩之) P219
 Hashimoto Akihiro (橋本 明弘) B305
 Hayasaki Masamitsu (早崎 将光) P234
 Hayashi Michiya (林 未知也) A153
 Hayashi Syugo (林 修吾) B458
 Hayashi Syugo (林 修吾) P229
 Hayashida Sachiko (林田 佐智子) C454

Hijikata Motoyuki (土方 基由) D452
 Hirano Tatsuki (平野 竜貴) P132
 Hirasawa Naohiko (平沢 尚彦) A401
 Hirasawa Naohiko (平沢 尚彦) P324
 Hirata Hidetaka (平田 英隆) A405
 Hirooka Toshihiko (廣岡 俊彦) C456
 Hirota Nagio (廣田 渚郎) A156
 Hobara Yasuhide (芳原 容英) B459
 Honda Takumi (本田 匠) C153
 Hori Masatake (堀 正岳) P106
 Horiguchi Momoko (堀口 桃子) C207
 Horinouchi Takeshi (堀之内 武) A309
 Horinouchi Takeshi (堀之内 武) D154
 Hoshi Kazuhira (星 一平) A163
 Hoshino Shunsuke (星野 俊介) D301

< I >

Imai Koji (今井 弘二) P330
 Imamura Takeshi (今村 剛) D151
 Inagaki Atsushi (稲垣 厚至) D458
 Inatsu Masaru (稲津 将) C201
 Inatsu Masaru (稲津 将) P203
 Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之) C162
 Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之) C163
 Ishida Haruma (石田 春磨) P317
 Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之) C451
 Ishikawa Akiko (石川 朗子) B162
 Isoda Fusako (磯田 総子) P120
 Itahashi Syuichi (板橋 秀一) D101
 Itakura Takuya (板倉 拓哉) P232
 Itano Toshihisa (板野 稔久) D160
 Ito Junshi (伊藤 純至) P117
 Ito Rui (伊東 瑠衣) C304
 Iwabuchi Hironobu (岩渕 弘信) D402
 Iwai Hironori (岩井 宏徳) B153
 Iwai Hironori (岩井 宏徳) P220
 Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之) B463
 Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀) P401
 Iwashita Hisato (岩下 久人) B152
 Iwayama Takahiro (岩山 隆寛) D159

< J >

Jeong Hanbyeol P115

< K >

Kai Kenji (甲斐 憲次) C463
 Kajino Mizuo (梶野 瑞王) P122
 Kajino Mizuo (梶野 瑞王) P311
 Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆) A151
 Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆) A152
 Kanada Sachie (金田 幸恵) C302
 Kanai Jumpei (金井 惇平) C208
 Kanaya Yugo (金谷 有剛) C462
 Kaneko Ryo (金子 凌) P333

Kang Hyun-gyu (姜 炫遠) P231
 Kasuga Satoru (春日 悟) P129
 Kataoka Ryota (片岡 良太) P112
 Kato Kuranoshin (加藤 内藏進) A160
 Kato Kuranoshin (加藤 内藏進) A161
 Kato Marie (加藤 万莉絵) P318
 Kato Masaya (加藤 雅也) B455
 Kato Masaya (加藤 雅也) C301
 Kato Ryohei (加藤 亮平) P130
 Kato Teruyuki (加藤 輝之) B205
 Katsumata Masaki (勝俣 昌己) C401
 Kawai Hideaki (川合 秀明) A207
 Kawai Kei (河合 慶) D451
 Kawamura Seiji (川村 誠治) D204
 Kawano Kyouzuke (河野 恭佑) P214
 Kawasaki Kenta (川崎 健太) P207
 Kishi Sadayoshi (岸 為良) B104
 Kitabatake Naoko (北畠 尚子) B203
 Kitamura Yuji (北村 祐二) D459
 Kobayashi Chiaki (小林 ちあき) A106
 Kobayashi Fumiaki (小林 文明) B456
 Kobayashi Kazuki (小林 和貴) P226
 Koderu Kunihko (小寺 邦彦) C306
 Kohyama Tsubasa (神山 翼) C101
 Kohyama Tsubasa (神山 翼) C305
 Koike Kana (小池 佳奈) D103
 Kondo Keiichi (近藤 圭一) C160
 Koshiba Atsushi (小柴 厚) C308
 Koshida Tomoki (越田 智喜) P323
 Kotsuki Shunji (小槻 峻司) C159
 Kuba Naomi (久芳 奈遠美) B303
 Kudo Rei (工藤 玲) D205
 Kuji Makoto (久慈 誠) P312
 Kunii Masaru (国井 勝) C152
 Kuroda Yuhji (黒田 友二) A101
 Kusunoki Kenichi (楠 研一) B157
 Kusunoki Kenichi (楠 研一) B158
 Kusunoki Shoji (楠 昌司) A306
 Kuwano-yoshida Akira (吉田 聡) P307

< M >

Maejima Yasumitsu (前島 康光) C157
 Maesaka Takeshi (前坂 剛) D306
 Maki Masayuki (真木 雅之) D303
 Mashiko Wataru (益子 渉) P328
 Matsui Takahiro (松井 貴裕) P121
 Matsumoto Kengo (松本 健吾) A157
 Michibata Takuro (道端 拓朗) B301
 Michimoto Koichiro (道本 光一郎) B460
 Minda Haruya (民田 晴也) D307
 Minowa Masahiro (箕輪 昌裕) P319
 Miyajima Akiko (宮島 亜希子) B103
 Miyashita Atsushi (宮下 敦) P335
 Miyazaki Shun (宮崎 駿) P208

Yamashita Katsuya (山下 克也)	P225
Yamato Koki (大和 昂貴)	P213
Yamazaki Akihiro (山崎 明宏)	B408
Yamazaki Akira (山崎 哲)	A404
Yanase Wataru (柳瀬 亘)	B208
Yasuda Tamaki (安田 珠幾)	A154
Yasunaga Kazuaki (安永 数明)	C403
Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代)	A164
Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代)	A304
Yokoi Satoru (横井 覚)	C402
Yokota Sho (横田 祥)	C161
Yokoyama Chie (横山 千恵)	B206
Yonehara Hitoshi (米原 仁)	D460
Yoshida Ryuji (吉田 龍二)	C202
Yoshida Satoru (吉田 智)	B452
Yoshida Toshiya (吉田 敏哉)	D457
Yoshikawa Eiichi (吉川 栄一)	B461
Yoshioka Hiroaki (吉岡 大秋)	C206
Yuasa Soichiro (湯浅 惣一郎)	P125
Yuba Yoshiki (弓場 良樹)	D406

< Z >

Zaizen Yuji (財前 祐二)	P310
-----------------------	------